

月報

<433号>

ケルン・ボン日本語
キリスト教会

二〇一六年二月一日発行

『クリスマスに思いを寄せて』

ルカによる福音一章二六〜三八節

佐々木 良子

一月下旬からドイツの各地でクリスマスマーケットがオープンし、ケルンの街も賑わっています。これまでどよりしていた風景は一気に華やかになって、国全体でイエスさまのご降誕を待ち望んでいるような感じですよ。

過日、アドヴェントクラウンを頂いたので、陽が落ちる五時頃になると毎日ロウソクを灯しながら、イエスさまのご降誕を待ち望んでいます。小さな優しい灯が部屋をほんのりと明るく包み、心も温かくなります。このようなクリスマスの迎え方は初めてです。そしてつくづく、「寒い暗いドイツの冬の生活に根付いているんだわ」と思わされています。昨年の私は、日本での最後のクリスマスを過ごしていましたが、このような情景は想像もなかったことでした。

考えてみると、私たちは一年後のみならず未来については誰も分からないのです。人はそれぞれ色々な計画を立てたり、思い巡らしたりしますが、結局は「人の一歩一歩を定めるのは主である。人は自らの道について何を理解しているか。」(箴言二〇章二四節)と、全ては主の御手の中であって、私たちは導かれるままに歩んでいるということをつくづく思います。この時期になると特に聖書に記されているイエスさまのご降誕を通して、箴言のお言葉をしみじみと思つてお祈りします。

クリスマスの出来事は、この世が始まって以来、誰もが想像を絶することです。しかも後にも先にもない一回限りのことでした。神が人となる。しかも具体的に少女マリアを通して、驚きの一言に尽きます。

クリスマスという思い浮かぶ聖書の箇所です。マリアは、ある日突然、目の前に天使が現れ、「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。」(三二五節)と告げられたのです。この時彼女はことの重大さよりも、自分が男の子を産むなんて、「どうして、そのようなことがありえましようか。わたしは男の人を知りませんのに。」(三四節)と、思い悩みます。無理もないことです。

このように私たちの人間の思いや力を遥かに超える仕方で起こった出来事がイエスさまのご降誕です。人間側の知恵、能力、資格、計画、受け入れ準備などの条件が揃って起こった訳ではありませんでした。唯、神のご計画が、神の時に成就されたのです。

しかし、到底受け入れられないことを、やみくもに根拠もなく、「このことを受け入れよ!」と、いうことではありませんでした。天使を通して、「神にできないことは何一つない。」(三七節)と、神はフォロワーして下さっています。このお言葉に目を留めてみると、マリアに対しての丁寧な説明をしているように感じません。「もう、ごちゃごちゃ言わず、この神様の御業を受け入れれば良いのだ。」と、強い言葉での断定です。全知全能の神に信頼して、感謝してその憐れみを受ければよいという事です。

私たちは神の全てを理解できる能力はありませんし、疑いもなく素直に従っていくこともできない不信仰な者です。しかし、そのようなことを充分ご存知の上で、私たちが人間を神が用い、祝福の世界に招いて下さっております。何ともありがたく勿体ないことではないでしょうか。

神というお方は私たちを通してご自分のご計画を成就されるお方なので、私たち一人一人をその場において、用いたい、必要だと願って下さっております。私たちは何の資質もありませんが、そのような光栄あるお役目選ばれているということをご、どれくらいの方が知っているのでしょうか。私もかつては知らないで生きていたものでした。

神を知らない人はこの世の常識や自分の価値観で「そのようなことはあり得ない」と、決めつけて、自分の判断で納得したその場所にだけ留まり、「私の世界」から脱出できずに人生を終えてしまっています。

一方、「どうしてそのようなことが……」と、思っても、マリアの如くに自分が置かれている小さな世界から、「神にできないことは何一つない。」と仰せられる御言葉に動かされました。そして、大胆に神の御前に進み出て、「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身になりますように。」(三八節)と、と神が共にいてくださる新しい世界へと飛び込み、主イエスの母として用いられる人生へと方向転換していききました。

かつて、イエスさまは魚が獲れないでいる漁師たちに「沖に出て漕ぎ出して網をおろし、漁をしなさい。」(ルカ五章三八節)と、仰せになり、漁師たちは「……しかし、お言葉ですから」と、決断して従った時におびただしい魚がかり、網が破れそうになったと記されています。信仰という芽は、信念で育つものではないかもしれません。自分の常識から全知全能の神の御言葉に従った時に溢れるほどの祝福が与えられます。

人は誰でも神の目的のために、いつも決断が迫られています。クリスマスの豊かな恵みと喜びとが、皆さんと共にありますように。





《クリスマスに寄せて》

「転職・天職」

佐々木良子

私がイエスさまと出会ったのは、日本基督教団・洗足教会の幼児学校です。東京都品川区にある教会で、今でいう幼稚園のようなものだったと思います。クリスマスになるといつも思い出されるのが、幼児学校でのページェント劇です。天使の役が嬉しくて、毎日家で手を挙げて「恐れることはない」と母のお手製の白いドレスとベールに身を包み練習してました。幼児時代の大切な思い出として今でも写真が残っています。それから何十年も経って、誰も思ってもみなかった教会の羊たち(教会員)を養う羊飼いの役(牧師)として立たせて頂いている私です。天使から羊飼いのへと転職した私は、正に神様が与えてくださった天職と感謝して日々過ごしています。

「クリスマスの思い出(過去&未来)」

増谷啓

私の思い出に残るクリスマスは、信仰を持って初めて迎えたイギリスでのものでした。近くに帝京大学タラム分校があったので学生達を呼んで小さな日本語クリスマス会をしました。「ポケモン」が「ポケット」+「モンスター」からできているように、「クリスマス」も「キリスト」+「マス(礼拝)」からできている、という牧師先生のお話を今でも覚えています。あれから一六年、今度は私が(人生初めての)クリスマス・メッセージをさせて頂いた(人)になりました。オランダ南部日本語キリスト教会主催の Amsterdam Vessen でのクリスマス音楽礼拝となりました。昨年はケルン・ボン日本語キリスト教会でルカ福音書一章を三回に分けてお話させていただきましたが、今回はまさにその続きの降誕箇所となりますので不思議なつながりを感じます。しかも当時の帝京大生がオランダ南部に住んでいることが分かったので、神様が送ってくれるようひそかに祈っています。私の人生の中でもう一つ思い出に残るクリスマスとなりそうです。皆様もそれぞれの場所で豊かなクリスマスをお迎えください。(オランダ南部日本語キリスト教会・伝道師)

コニー・シュテック

聖書の中の一短いクリスマスのメッセージは第二コリント八章九節に書いてあります。「あなたがたは、私たちの

主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しきによって富む者となるためです。「イエスは父なる神様と一緒に栄光を離れ、人間になり、飼葉おけに赤らんとして生まれました。このような貧しきよりの謙る事は誰でも出来ませんと思えます。パウロは「ローマ」二章にもこの出来事を良く記述しました。イエスはこのような屈辱を御自分で選ばれました。なぜですか?パウロは「コリント」の場所にこの様に説明します「あなたがたが、キリストの貧しきによつて富む者となるためです。」イエスは御自分の人間に対しての素晴らしい愛を見せるため、又は、私たち人間を永遠に神様との交わりを誘うためにこの道を選ばれました。今年のクリスマスの時に、新たに神様の素晴らしい愛を褒め称えましょう。

ヘルガ・マイヤー

Tausend Weihnachtssterne leuchten in den Straßen unsrer Städte.

Hundert Weihnachtssterne glitzern an der Weihnachtslichter-Kette.

Weihnachtsstern und Weihnachtslieder kehren alle Jahre wieder.

Wo so viele Sterne blinken lass den einen Stern uns finden, wo so viele Lichter blinken, darf das eine Licht nicht schwinden.



千のクリスマスの星が私たちの町の通りに光っている百のクリスマスの星がクリスマスの電飾に輝いているクリスマスの星と歌が今年ももどってきた
たくさん星がまたたく所に、ひとつの星を見つけて、たくさん星がまたたく所に、そのひとつの星が消えて欲しくない

ドリーパー京子

アドヴェントクランツ(リース)の一本目の蠟燭に灯がともりました。部屋の中には樅の木の香りがほのかに漂っています。

バザーに寄付する本を探している時、偶然見つけたアドヴェントの本、子供達と一緒に読んだ思い出をたどりながら

しじをめぐってみました。二月一日から二四日まで、イエスの降誕にまつわる話、クリスマス用の飾りやクッキーの作り方、そしてクリスマスを背景にした小話が載せられています。小さな村に住む六歳のダビッド君の物語がとても暖かく、再度読みました。

小学校一年生のクラスでクリスマスの降誕劇をすることにになり、ダビッド君は不親切な宿屋の主人を演じることにになりました。しかしどうしても、「私の宿は一杯で貸す部屋はない」と言えず、「この村の家の扉はいつでも開いています。どうぞ入って休んでください」と言ってしまう。一瞬会場は静まり返り、担任の先生も言葉を失ってしまいました。

アドヴェントの蠟燭のように、暖かな光が私の中に差し込んでくるのを感じました。様々な問題を前にして、私たちも心の扉を開くことができるように祈ります。

尾畑秀治

今年七月でドイツ滞在が四〇年となりました。ただただ主の憐れみとお支えがあった事を感謝しています。今年四月教会は佐々木良子先生をお迎えし、新たな出発の時が与えられました。多くの方々の祈りとお支えのあることをいつとも忘れないで、先生と共に楽しい教会、喜びの教会を築き上げていきたいと祈っています。今年のクリスマスは息子家族と共に、三人の孫に囲まれて東京で迎えるようにしています。一月末には札幌で妻と共に「メサイア」のソロを歌う機会を与えられ、これも四〇年目の節目かと心に刻むものがありました。その年の私達三つ子の「カナンの地」が近づいたのかも知れませんが。

尾畑真知子

今年の第一アドヴェントに行われた「メサイア」の演奏会当日、「娘の歌をもう一度聴きたい」と、その日を指折り数えて楽しみにしていた父が発熱。肺炎と診断された。入院先のベットの上で泣いていたという今年一〇〇才になった父、あまりにも可哀想だった。でも次の日、教会主催の伝道を目的としたこの「コンサート」が大成に終わったことを説明すると、「話を聞くだけでも楽しいよ」と静かに言っていた。客席で車椅子に座って聴いた九四才の母は「素晴らしいかった」と幸せでうたった。私にとっても舞台の上で、主の偉大さを感じながら祝福の時であった。主の働きに用いられた事を心から感謝し、主の降誕から復活・昇天までを誉めたたえるハンデルの音楽と共にハレルヤー・アーメン。

—— シュロミット申弥子

一年の無牧を終え今年四月に私達教会は佐々木牧師を迎えしました。先生はドイツ生活にも慣れてもうずーと居て下さっている感じがする様になっていきます。

牧師館での聖書を学ぶ会では、色々脱線しますが日頃聞きたいと思っている事が質問出来、一人で聖書を読むのと違う恵みをいただき、とりなしの祈りで終っています。

今年はケルンで友人の一人を天国に送り、自分自身又集会でも死について考える時でもありました。戦争、難民、テロ、環境と問題がいくつもあつた世の中です。平和の主おいで下さいと願う者です。

—— 外間久美子

早いもので、手術から二年半……抗がん剤治療・放射線治療と辛かった時期も何か遠い昔の事のような気がするの不思議です。今思えば、病気が発覚する前の私は将来への不安に押しつぶされそうになり、心身ともに疲れきっていました。でも、病気を通して、神様は私に沢山のことを示されました。特に、私の治療中の不安すべてを次々と隣人を通して取り除いてくださったことには本当に驚きました。「これでも、まだ思い煩うのか」と問われているように思いました。神様がきくと道を備えてくださったと心から信じられるようになった今、私の心は平安です。そして、毎日、生かされていることへの言葉では言い尽くせない感謝と喜びに満たされています。いつもお祈りに覚えてくださった兄弟姉妹、お手紙くださった姉妹、ほんとうにありがたうございました。素敵なクリスマスをお迎えください。

—— 佐藤ブルーバ導子

父が亡くなって以来この十数年クリスマスとお正月は、殆ど日本の母のところで過ごすのが慣わしとなっておりましたが今年はいよいよドイツで過ごす事になりました。教会の新しい年の時期をこうして過ごす事になりました。何か新鮮みを感じます。今更けてきてはいたものの、決心がつかず引きずってききましたが心の整理がついたようで、ケルン教会の密書に導かれていた人々の希望の意志表示をするにいたしました。これまで導いてくださった神様に心から感謝しております。これからも皆様と一緒に教会の奉仕に積極的にあたらせていただきたいと思います。どうぞ今後ともよろしくお願ひ致します。皆様の健康をお祈りいたします。

—— マツヨシフ・ウヰエ、桂子、聖歌

ドイツに戻ってきて二回目のクリスマスの季節になりました。ドイツに戻ってきて、季節はもう一巡りしたというのに、地が足がまだしつかり着いていないような生活を送っているように感じています。

フランクフルトとケルンは約200km離れているのですが娘の学校や習い事の関係上思うようにケルン・ボン教会の礼拝に行くことができません。今年の(二月三日現在)礼拝出席回数を思い出してみると、片手の指も余るどころか、もしかしら夏にたった一度だけだったかもしれないということに気がつかされ、日本に住んでいた頃と変わらない頻度だということに愕然としました。せめて今年はまだ一回はケルン・ボン教会の礼拝に行きたいと思っています。

ケルンや日本からは離れていますが、同じ神様を崇め、光として私達の暗い世界と心のただ中に来てくださったイエス様を感謝をもって迎え入れる時として、このアドヴェントの時を過ごしてまいりたいと思います。

—— 張谷延河

シャローム。皆様に神様の愛が共にあることを祈ります。私が今年の九月初めてケルン・ボン日本語教会で礼拝を捧げてから既に三カ月も経っています。教会の皆様にも温かく迎えられる、礼拝をともにすることに感謝します。私は子供の時から色々な国で生活し、自分勝手に新たな地でも全く問題ないと思っていました。今回の移動で想像以上に壁にぶつかりいつも謙遜を忘れさせない主の導きを感じます。感謝の気持ちを忘れず、このセロからのスタートより神様は私をここに導かれるか楽しみです。このドイツではイエスキリストの誕生を祝うクリスマスが文化と伝統の大きな一部となっており、私の家族三人の初めてのクリスマスも思いっきり感謝し喜びことができると思っています。皆様にも神様の祝福がありますように、お祈りします。

—— 藤井千恵

年末に向けてハタハタと忙しくなるのは、私だけではないと思うが、毎年懲りずに繰り返している気がする。(因みに、この原稿も締め切りが過ぎてしまった。編集長の小川オスナ一さん、ごめんなさい。)もっと手際よく、要領よくできないものか、いつも思っているのだが、うまくいかない。今年は何年ぶりにアドヴェントのロウソクを準備できず、第二アドヴェントにやっとKranzが出来上がった。長年母がしてくれたように、私も子供たちにドイツの伝統的行事や飾りを用

意してあげたいのだけど、クッキーもまだ焼いていないし……でも、待降節で一番大切なのは、もちろんそういうことではない。とはいえ、日常がハタハタしてしまつと、肝心なところにも目が行き届かないのかも知れない。落ち着かなければ。

今日は、Weihnachtsmarktとコーラスの初演、とてもまくいき、喜ばれた。しかし、同時に奈々や堅造の音楽教室のクリスマスコンサートだったので、お互いの演奏が聴けなかった。そういう感じで、二月のスケジュールは結構きついが、家々がクリスマスのイリュミネーションで明るく灯り、心も暖まる。

先日(尾畑さんの札幌でのコンサートをメインに)北海道を訪ねた両親に、前もってインターネットで注文していた新共同訳聖書を運んでもらった。それと、賢治のリクエスタで日本の歴史の漫画版も、いずれもゆつくり読んでみたい。冬休みに期待。

今年に従妹の結婚式と親友のお葬式が重なり、人生を思い返すきっかけとなった。私は本当に恵まれた、幸せな人生を生きてきたなあ、と。

皆さん、クリスマスおめでとございます。イエス様のお誕生によって、世界中に平和が来るよう祈ります。

—— 藤井隼人

今年四月、佐々木良子牧師をお迎えすることができた。これは当教会の現状を考えると奇跡としが表現できない恵みであった。

六月の牧師就任式礼拝は、州教会 M. Schaefer 牧師と日本基督教団から Ruth Waehner 牧師の司式により執り行われた。小松川教会を代表して佐々木警兄が出席。

九月、デュッセルドルフの Johannes 教会で、エキユメニカルサタデーを開催。礼拝、賛美合唱、日本小物のバザー、DVDによる日本紹介(五島列島の教会群と隠れクリスチアンの歴史、在東北各教会の大震災後の復興状況)を行った。

一〇月、「キリスト伝道会」から四名の方々が応援伝道に来独。説教: 深谷春男牧師(東京聖書学校吉川教会牧師)、オルガン: 吉本真理牧師(国際基督教団代々木教会牧師)。同行の鈴木優子姉(小松川教会員)が『私たちの大事な大事な佐々木良子先生です。皆様よろしく。』と涙声で挨拶され、愛する娘を手放す母親の姿を思っ大いに感銘を受けた。

佐々木先生は、月一回の礼拝後五分間祈祷会、賛美礼拝(ゴスペルソング等、賛美の多い礼拝)、バザー参加者に御言葉カードを手渡し、シスター方とカトリックの信徒の方々、バザーをお手伝い下さった方々との交流会を開く等の新しいアイデアを次々に実行して下さい。来年も佐々木先生を先頭に当地での伝道に一層励みたいと願っています。 Frohe Weihnachten!

藤井弘子

今年はずエルノブイリ三〇年、フクシマ五年ということ、一年を通してドイツ各地で(勿論私たちも主催し)様々な催しがあり、出来る限り参加した。

四月にはフランクフルトにて、ヘッセン州プロテスタント教会主催第三回セミナー『原子力と法』に参加、日本の気鋭の弁護士さんの講演で初めて黒塗り(海苔弁)資料なるものを見た。分厚い壁に立ち向かう日本の弁護士に対しドイツの先輩方が「とんどんやって下さい。支援しますよ。」と約束して下さい。ちなみに第一回は『原子力と医』で、松井英介医師、第二回『原子力と宗教』では私の母教会西宮の岡本知之牧師が日本の実情を講演された。

八月には和歌山の山崎知行医師・喜美子夫人(お二人は、私の鳥取教会青年会時代の兄弟)と共に黒い森のシェーナウを訪問。シェーナウ電力(EWS)創設者の一人ミヒャエル・スラーテック医師は『私の孫達も孫が得られる為にこの仕事をしています。』と。この町の古いプロテスタント教会の、太陽光モジュールで覆われた大屋根が燦然と輝いて見えた。太陽・風・水のみで作られたEWSの電力が、来春から我が家にも届く。神は私たち人間に地球を託されたが、私たちはいつの間にか神の領域に踏み入り、取り返しつかない人命軽視に陥っていると思う。一人の人をかがえの無い人格として尊重し、愛して下さい。九九匹を置いて一匹の迷える子羊(私)を探して下さい。主イエスの誕生を感謝し、メリークリスマス。皆様の上に主の御祝福が豊かに在りますように。 Frohe Weihnachten!

小川オスナー良子

今年の夏は夫と彼の一五歳の息子のトム、ヨハン(8歳)と共に夏休みを日本で過ごした。出不清のトムが日本に来るといので、私も悩みつつ、楽しく過ごしてもらいたいと思いい、色々と計画した。広島原爆資料館を訪ね、今治ではしまなみ街道のサイクリング・ツアーに参加した。ドイツでは食への好き嫌いが多くトムも日本では積極的に新しい食

べ物に挑戦していた。おいしいものも沢山見つけたようだ。「日本ではどうしてよくホラー映画がテレビでやっているの?」と聞かれ、「日本の夏はとても暑いから、怖い話を聞いて涼むためだよ」という説明に大笑いしていた。彼の新たな一面を発見できたこと、楽しんでもらえたことは、大きな喜びとなった。

ヨハンが所属する少年合唱団はアドベントに入り、教会定年者のクリスマスパーティー、病院など様々な場所でのクリスマスの歌を歌っている。この町に住む人たちだけでなく、神様も喜んでくださっているだろう。クリスマスの暖かい希望の灯火が皆様と共にありますように。

報告



一月一日に開催された第三六回教会バザーは、多くの方々のご協力をいただき実り豊かな時となりました。総売上は47,800ユーロとなり、経費を引いた41,804ユーロ全額をティアコーニーの「世界にパンを(Brot für die Welt)」の活動に献金いたしました。心より感謝いたします。

今年にはボン・ヘッファー教会の改修工事(7/10~9/10)の間、パウル・ゲルハルト教会をお借りして礼拝を行いました。改修工事終了後のボン・ヘッファー教会は全体的に見違えるほど明るくなり、会堂の壁と座席、台所の壁と備品、トイレ等が新しくなって快適に使わせて頂いています。このことに感謝して、感謝献金をボン・ヘッファー教会にお捧げしました。

シスター方のご協力を得て二月六日にアポストレン教会にてバザーにお手伝い下さった方々とシスター方と恵みのクリスマス会を開くことができ感謝でした。

予 告

クリスマス日独語礼拝 二月二〇日 一四時
主イエスの御降誕をお祝いするクリスマス礼拝です。礼拝後には祝会で交わりの時を持ちます。

※ 祝会ではプレゼント交換がありますので、ご用意いただける方は3ユーロ位のものをご準備下さい。
【二月・一月の主な予定】

二月一日(日) 子供と一緒のクリスマス

第三アドヴェント礼拝

祈禱会 役員会

一七日(土) メアブツシユ家庭集会

藤井兄弟宅 一四時半

一八日(日) クリスマス日独語礼拝・祝会

二〇日(火) 聖書を学ぶ会 一〇時 牧師館

二五日(日) クリスマス賛美礼拝

一月 一日(日) 新年元旦礼拝

八日(日) 主日礼拝 礼拝後、新年会

一〇日(火) 聖書を学ぶ会 一〇時 牧師館

一九日(木) ケルン集会 シュミット姉宅

二四日(火) 聖書を学ぶ会 一〇時 牧師館

発行:ケルン・ボン日本語キリスト教会役員会
Japanische Evangelische Gemeinde
Köln-Bonn e.V.

主日共同礼拝

会場: Dietrich-Bonhoeffer-Kirche
住所: An der Decksteiner Mühle 1
50935 Köln (Lindenthal), Germany
電話: 0221-4300319 (礼拝前後のみ)
時刻: 毎週日曜日 14:00-15:00

牧師 佐々木良子 (Pfr. Ryoko SASAKI)

牧師館: Breslauer Str. 26, 50858 Köln
固定電話: 02234-9298792
携帯電話: 0151-2910 6278
Email: r310130s@yahoo.co.jp

ホームページ

http://koelnbonn.jp

振込口座

IBAN: DE97 3601 0043 0587 6034 38
BIC: PBNKDEFF